

背景・目的

<現状課題>

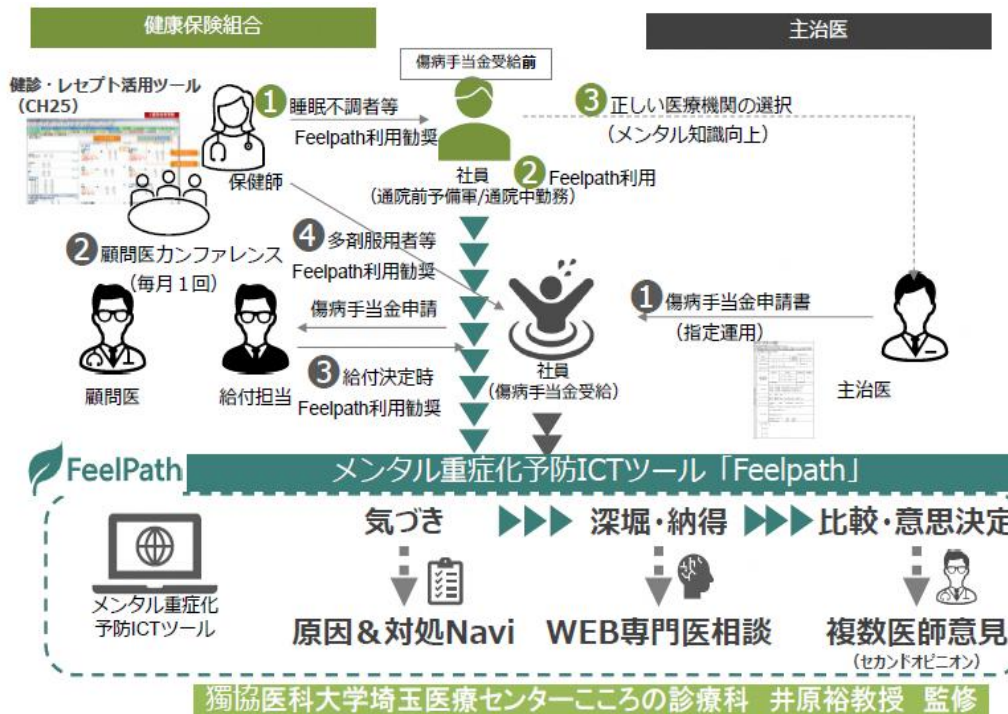
精神疾患に関連した傷病手当金給付額は年々増加傾向にあり2025年度は1億7,000万円（前年比 128.3%）に達し、給付総額の 49.8% を占め財政圧迫要因となっている。新規申請も前年比 136.9% と急増しており、既存の対策では顕在化するメンタル不調層への抑制が困難な状況にある。

<目的>

医学的妥当性に基づいた匿名性を担保したICTツールによる早期介入と、複数専門医によるセカンドオピニオン（以下、MSOという）を組み合わせ、「安易な診断書発行による不必要な休業」を回避する。加えて顧問医を含めた毎月のカンファレンス実施により傷病手当申請者を中心に、レセプト活用による受療行動の適正化により傷病手当金支給額の適正化に繋げたい。

事業概要

顧問医×ICTツールを活用したメンタル重症化予防



<通院前予備軍/通院中勤務>

- ① 睡眠不調者等への利用勧奨（問診活用）
- ② 利用勧奨に従いFeelpath利用
- ③ メンタルリテラシーが向上し医療機関の選択が改善（安易な診断書発行医療機関の排除）

<傷病手当金申請者>

- ① 指定の傷病手当金申請書運用（安易な診断書防止）
- ② レセプト活用による顧問医指示に基づく介入
- ③ 傷病手当金支給者へのFeelpath利用勧奨（支給期間の短縮）
- ④ 多剤服用者に対するFeelpath利用勧奨（重症化予防）

